



みちくさ

2015.10.5 No.11

ノートのもつ大切さ

どこの学校でも、ノート指導には力を入れております。お子さんの学習ノートを、時々覗いてみて下さい。基本的に、学習のめあてになることや課題が書かれていて、どうして自分がそう考えたのか、考え方の道筋が書かれていたり、後で振り返ってみた時に、学習の過程が自分で分かるように整理されたり、(もちろん教科によっても違いますが) ノートのもっている役割はこういうところにあります。

学習の課題は青の線で囲み、自分の考えや友だちの考えを記載するときには、後から分かるような印をつける。最後のまとめは赤の線で囲む・・・と、これはノートの使い方の一例ですが、色で分けたり、記号を付けたりすることが普通に行われています。後からの振り返りがしやすく、そして学習の積み重ねとしてのポートフォリオの機能をもっています。普段から、先生が黒板に学習の課題を書き始めたら、子どもも同時に取りかかり、先生が書き終わると、子どもたちも書き終わっているといった具合に、時間をかけないで記録させる訓練もします。これが、学年が上がったり、担任が替わったりする度にノートの使い方が変わったのでは、子どもたちが戸惑うこととなります。ですから、学校ではある程度ノートの使い方は共通にすることが基本です。



子どもたちの表現力をより高めようとするのであれば、書く活動をおろそかにすることはできません。自分の考えを相手に伝えるように話すためには、自分の考えを整理する場が必要になります。つまりノートは、伝えるための作戦を練るという機能ももっています。

普通の授業では、子どもたち同士の学び合いを大切にさせていますが、この段階で目指したいのは「考えるノート」としての機能です。自分で調べたことや考えをノートに記録させて発表の土台とさせます。友だちの意見を聞いて、考えを修正したり加筆したりできることも大切なことです。

書くことによって覚える。書きながら自分の意見を整理する。文章を書くということは、昔から大事にされてきた学習です。これはデジタル時代になっても不易の部分であると思います。私たち大人が、キーボードで文章を入力するようになってから、漢字を忘れつつあるという現象も、ノートに書くという作業が昔より減ってきたことに起因しているものと思います。もちろん、キーボード操作を子どもたちに覚えてもらうということも、現代の学習では必要なスキルにはなりますが、その前に、ノートをしっかりと活用することが大事ですね。

ぜひ、子どもたちに嫌がられない程度に、ノートを見せてもらって、「今日はどんな勉強をしたの」と聞いてみてください。

あなたは犬派と猫派のどちら？

犬の好きな人、猫の好きな人、よく人のタイプを論じるのに使われる分け方です。

私自身のことで恐縮なのですが、小学生の頃、鳩を飼育していて、一度野良猫に数羽の鳩を殺されたことがあったため、猫が大嫌いになりました。もっとも、だからといって犬が好きなわけでもありません。昔は犬を戸外で飼っていることが多かったので、よく吠えられ、どうも苦手意識をもってしまいました。

自分の思いが変わったのは、息子が小3の時、捨て猫を拾ってきてからです。共働きで一人っ子だったもので、家に帰ってくると誰もいないのが淋しかったのでしょう。いつになく飼いたいと繰り返し訴えました。

その猫は17年生きました。震災も乗り越えましたが、最後は老齢により逝ってしまいました。ちょうど息子が帰省する前日で、もう一日長ければ看取ることができたのにと、息子も残念がっておりました。きちんと火葬して、今、うちの庭の一角に埋まっています。

現在我が家に居るのは二匹目です。これも野良猫出身です。隣のうちの子どもさんが猫を探していて、近所の八百屋さんからもらい受けました。店先に二匹捨てられていたのだそうです。その片割れがうちにやってきました。だから、お隣とは猫が兄弟同士ということになります。猫というのは縄張り意識が強く、他の猫がそこに入ってくると過剰に反応するのですが、不思議なもので兄弟と分かるのでしょうね。今でも隣とは仲良しのままです。



こんな具合に、ペットのことを語り出すといくらでも話せますが、動物が嫌いな人にはいい迷惑だと思しますので、この辺でやめにします。一つ言えることは、動物を飼うということは、いつの間にか、家族が増えるのにも似ていて、愛おしく思う気持ちが膨らむものです。今は住宅や健康の事情などもあり、ペットが飼えないというご家庭もあるのでしょうか。

道ばたの身近な植物や虫に目を向けてみてください。はっとするような美しさを見つけたり、また意外にしたたかな生き方に驚いたり、心を動かすことができるものです。ペットのことを話題に取り上げましたが、子どもの心を育むものは、身の回りにたくさんあります。自ら気づいたことを教える子も多いことでしょう。その宝石のような言葉に共感できる大人でありたいと思っています。